



『23人のIMPISH(いたずらっ子)』（4月25日）を振り返って・・・

<みんなの感想より>

- 強い信念を持って前へ進んだことはなかなかできないと思うし、うらやましく思う。部活では、このIMPISHのチームみたいに奇跡を起こすのは無理だと思うけど、部員全員で頑張りたいと思った。
(1組女子)
- 1人ひとりの力はどんなことも乗り越えられるような力があるのだなと思った。だからこそ1人がさぼれば、何も得ることができない。1人ひとりがするべきことをやることで、素晴らしいものが手に入るんだなと思った。「誰かがやる」じゃなく、自分たちの力でやることが大事で、自分が精一杯やることでみんなも自分についてこれるんじゃないかと思った。
(1組男子)
- 自分たちの部活も、そういうシステムだったら、みんなで楽しくテニスができると思った。団体戦などはそういうわけにはいかないけど、「みんなで」ということが大切なんじゃないかと思った。「一人一人」が「一つ」になったら、すごい力が発揮されるということを改めて知れた。
(2組女子)
- みんなが一つになればすごい力になるんだなと思った。僕は卓球をしていて、試合は個人でやるけど、応援とかで一つになれるのかなと思った。部活も夏ぐらいで引退するから、最後まで一つになって頑張ろうと思った。
(2組男子)
- 誰一人はずれない、23人で1つのチームということを踏まえて、このメンバーでないとできないことをやろう！という思いを大切にしたのだと思う。伊藤先生の「愛の3原則」もそんな意味が込められているのではないかと思った。
(3組女子)
- 先生やチームの人が大切にしていたのは、「みんなで1つのことを成し遂げる」ことだと思います。チームが全米選手権で優勝できるほど強くなれたのは、みんながみんなのために頑張ったからだと思います。
(3組男子)
- IMPISHがあれだけ大きな成果を残せたのは、過程で苦しみながらも23人であきらめずに努力を続けたからだと思いました。必ず結果がついてくるわけじゃないけど、過程でどれだけ仲間と努力し続けるかが大切なんだと思いました。結果を出せなくても、過程で悔いなく努力したら、きっと達成感を味わえるだろうなと思いました。
(4組女子)
- 全員で挑むというのは、「結果」にこだわるならいちかばちかの大勝負だけど、「過程」を大切にするならとても大切なことだと思いました。「結果論」というのはあまりよくないと思いました。「IMPISH」の人たちのように、僕たちのクラスも全員で成長できたらいいと思いました。
(4組男子)

裏面に続きます

- 「思い出の中に残しておいてほしい。負けてもいいから悔いのないチアをしてほしい。」（伊藤先生は）そう考えたんじやないかと思う。勝つことはそれほど大切ではなくて、勝つよりも楽しんで終わることの方が、とっても大切なと思う。（5組女子）
- 良いチームというのは一人が主役ではなく、みんなが主役という気持ちで仲間を信じているからこそ、良いチームなんだと思いました。僕も、クラスや部活のチームが少しでも良いチームになるように、協力していきたいです。（5組男子）
- 「チーム＝愛」これでも成り立つと私は思いました。チームみんなで頑張るから、愛が芽生える、愛が生まれる。仲間も大切やし、愛も大切だと改めて感じることができました。（6組女子）
- 愛にはいろんな愛があるけど、どれも全て大事やって改めてわかったし、「愛」はどんな愛でもいいし、誰にでももってあげることが大切だと思った。（6組男子）

全員がダンスドリル未経験者という厚木高校の部員の成長を追ったドラマを見ました。顧問の伊藤先生が大切にしているポリシー…“校内選抜はしない”、“部員全員で出場する”、“補欠選手はつくらない”を守ろうとすると、どうしても様々な問題が起ってしまいます。大人数で息・動きを合わせることの難しさ、ケガ等のアクシデント、部員同士の衝突…彼女らは、それを見事に自分たちの力で克服し、全米優勝という偉業を成し遂げます。

映像の中にこのような言葉がありました。「厚木高校ダンスドリル部の23人は、決して一人一人が特殊な能力を持っているわけではない。ただダンスが好きで、仲間が大好きな普通の女子高生だ。奇跡を掴むチャンスは誰もが持っているのかもしれない。そんな夢を教えてくれたのだ。」一人では不可能なことも、みんなとならやれる。一人ひとりがチーム、”集団”的ことを考えて行動すれば、大きな力が発揮される。みんなの持つ力は無限大です。このことをクラスの中で、そして部活動の中で、思い出して行動してほしいと思います。愛をもった行動が、自分たちの毎日を彩り、今後の自分たちを支えてくれると思います。
